

兵庫運河シーチェンジプロジェクト実行委員会の取組

人口減少や高齢化が加速し、農業や農村を維持することが困難な農村部。食に関して関心は高まるが、どのように関わったら良いか見えない都市住民。その両者がうまく繋がることができれば、きっともっと暮らしやすく、まちが好きになれるはず。

兵庫運河シーチェンジプロジェクト実行委員会(神戸市兵庫区)では、農村と都市の心理的な距離を縮めていくためのプロジェクトを実施しています。

農村のことを知る、農家のことを知る、農業のことを知る

海的环境改善に向けた活動を行っていたメンバーが、海に繋がる山、農村の環境に興味を持ったことがきっかけ。農家の方たちと定期的に関係を持ちながら、都市住民が自分たちの食べる食について考える、取り組める場所を作れないかと活動を開始しました。

まずは、農村、農家、農業のことを知ろうと、メンバーが農家の方たちと意見交換し、現地での援農からスタートしました。



農家と定期的に関われる機会、作物を育てる機会



次に、都市部にコミュニティ型農園を開設。

地域住民を対象としたワークショップを重ねながら整備しました。定期的に農家の方を招き、土作り・種蒔きなど野菜の育て方を指導していただきました。

都市住民にとっては、農園作業を通じて農村(農家)と定期的に関わる機会になるとともに、作物を自ら育てることで、農村への興味を持つきっかけになりました。

農村と都市をもっと自由に行き来できるように

今後は、コミュニティ型農園を通して知り合った農家を訪れる見学会などを開催し、実際の農村での取組(農業の現場)を都市住民が学ぶ機会を創ります。

そして、農家が人手を必要とするときに都市住民が援農に訪れるなど、将来は農家と都市住民が、農村と都市をもっと自由に行き来できるような関係性に繋げることが目標です。

